

# HINOYAMA Brand Guidelines

火の山ブランドガイドライン

—

ver 1.1

Mar 2025

# Contents

## 目次

<b>00. Introduction</b>	火の山ブランドガイドラインについて	<b>P.03</b>
<b>01. About The Logo</b>	ロゴについて	<b>P.04</b>
- Concept	- ロゴのコンセプト	P.05
- Structure	- ロゴの構造	P.07
- Image for Use	- 使用イメージ	P.08
<b>02. Logo Variations</b>	ロゴのバリエーション	<b>P.09</b>
- Main Logo	- メインロゴ	P.10
- Sub Logo	- 縦組みロゴ	P.11
- White Logo	- 白抜きロゴ	P.12
- Monochromatic Logo	- モノクロロゴ	P.13
<b>03. Brand Color</b>	ブランドカラー	<b>P.14</b>
- Color Palette	- カラーパレット	P.15
- Creative Sample by the Color Palette	- カラーパレットを使った作例	P.17
<b>04. Usage</b>	ロゴの取り扱い	<b>P.18</b>
- Clear Space	- クリアスペース	P.19
- Background Rule 1	- 背景ルール1	P.21
- Background Rule 2	- 背景ルール2	P.22
- Minimum Size	- 最小サイズ	P.23
- Prohibited Usage	- 禁則例	P.24
<b>05. Typography</b>	タイポグラフィ	<b>P.25</b>
- Recommended Fonts	- 推奨フォント	P.26
- Original Composite Font by Recommended Fonts	- 推奨フォントによるオリジナル合成フォント	P.28
- Manual Adjustment for Recommended Fonts	- 推奨フォント使用時の手動調整イメージ	P.30
- Alternative Fonts	- 代替フォント	P.31
- Manual Adjustment for Alternative Fonts	- 代替フォント使用時の手動調整イメージ	P.33
- Text Layout Sample	- 文字組みのサンプル	P.34

# Introduction

## 火の山ブランドガイドラインについて

火の山では、「ここから見える海峡の景色、歴史、自然、市民の憩いや活動すべてを次世代に受け継いでいく」という想いをもち、再編整備に取り組んでいます。市街地に近い緑豊かなフィールドに、点在する戦跡遺構がノスタルジーを醸し、海峡の自然美と文明が生んだ景観を一望できる火の山は、公園という枠に収まらない、下関及び関門地域の魅力を高める重要な場所になると信じています。

この度の火の山の再編整備にあたり、火の山ブランドを象徴するロゴ、カラースキーム、フォントを定め、その使用解説書となるガイドラインを制作しました。本ガイドラインは、火の山の「らしさ」を際立たせ、世界観を構築することで、認知度を高め、火の山や関門地域のブランド力向上に寄与することを目的としています。地域の歴史、地理、環境などの特性が活かされ、そこに住む人の想いが込められたブランディングは、訪問者に深い理解と感動をもたらし、新たな愛着を生むものと考えています。ブランドとは、それに対する人々の認識や感情、信頼や期待を集約した概念及びイメージのことです。様々な経験が積み上がって人々の心の中に作られるものであるため、すべての活動において一貫性を持ったコミュニケーションがなされることが大切になります。よって、将来にわたる市や指定管理者による火の山ブランドの管理運営や、事業者によるデザイン展開にあたっては、本ガイドラインの趣旨とコンセプトをよく理解した上で本ガイドラインの規定を遵守することとします。

なお、適用対象は幅広く、例えば紙媒体、web媒体、看板、公園施設、グッズなどを想定しています。

本ガイドラインの運用により、火の山が今以上に認知されるだけでなく、火の山をもっともっと好きになり、関門随一のとびきりの場所として、沢山の人が訪れるようになることを願っています。

01.

# About The Logo

ロゴについて

# Concept

## ロゴのコンセプト

火の山のロゴデザインを考える上で大切にしたい視点は、

- ① 「火の山」という親しみやすく印象的な名称をシンボリックに表現する
- ② そこにまだない新しいイメージを付加して、印象を刷新するアプローチではなく、火の山の普遍性や既にあるものを活かしながら、より魅力的にアップデートした新鮮な見え方をつくる
- ③ みんなに愛され、親しまれるデザインをつくる

というものでした。

特に②については、多くの方が火の山現地で体験し印象に残るであろう純粋なものを起点にして、「新鮮なんだけど、たしかに火の山らしい」と思えるデザインを目指しました。

また、そうすることで、自然と③をも叶えられるものになると考えました。

本ロゴデザインが、これまでの火の山の歩み、そしてこれからの火の山への想いが、どのように込められて企画・制作されたものであるかを次頁にてご紹介します。



# Concept

## ロゴのコンセプト

「新鮮なんだけど、たしかに火の山らしい」を実現するための火の山の“普遍性”や“既にそこにあるもの”として、①歴史、②景観、③山姿に着目しました。

そして、それら3つの特徴を並べると、そこには湾曲したラインがつくる独特な共通点があることに気づきます。

本ロゴデザインは、この湾曲したラインをもったフレームを独自性として取り入れ、「火の山」という印象的な名称に掛け合わせることで、シンボリックなロゴへ昇華しようと試みたものです。

なお「火の山」という3文字には、それぞれに異なる特徴的なモチーフが隠されています。

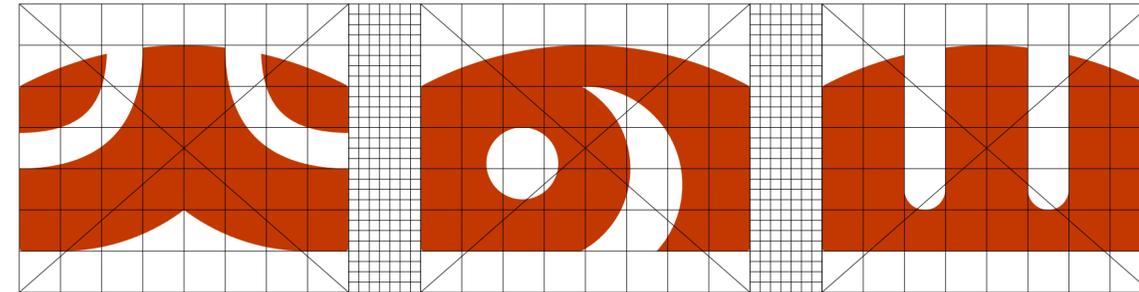
火の山の過去と未来の2軸から意味を込め、それぞれのタイプフェイス(書体)の具体的なデザインへと落とし込んでおり、訪れる人にいろんな火の山らしい時間を楽しく過ごしてほしい、そして火の山をよく知る地域の方々にとっても、長く愛着をもてるシンボルになってほしいという願いを込めています。



# Structure

## ロゴの構造

グリッドを用いた計算の中で細部まで無駄なく、強度の高いデザイン設計を実現しています。



# Images for Use

## 使用イメージ

ロゴを使用した制作物のイメージです。  
これらはいくまでも一例であり、多様な使われ方が想定されます。



02.

# Logo Variations

ロゴのバリエーション

# Main Logo

## メインロゴ

メインでの使用を想定したロゴデザインです。  
シンボリックな図案的要素を取り入れたオリジナルのロゴタイプが、火の山の個性・アイデンティティを強く印象づけます。

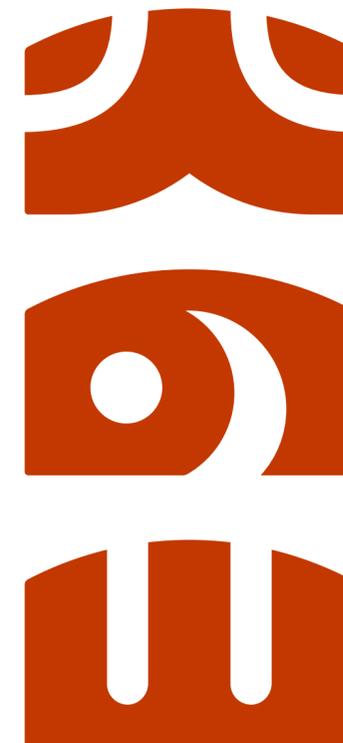


# Sub Logo

## 縦組みロゴ

ロゴの表示環境を考慮した際、3文字を縦組みにしたこちらのロゴを使用することができます。

あくまでもメインロゴの使用を基本としますが、メディアの種類や形状によって最適な方を使用してください。



# White Logo

## 白抜きロゴ

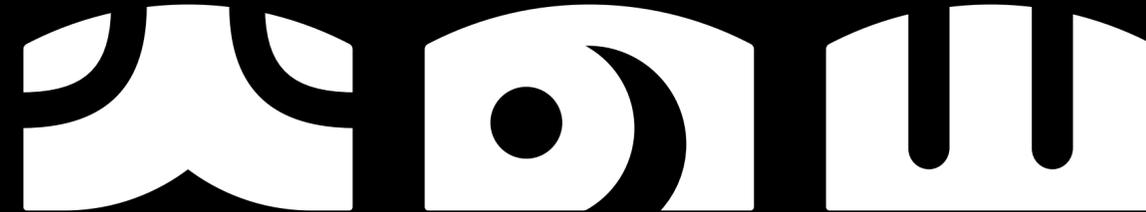
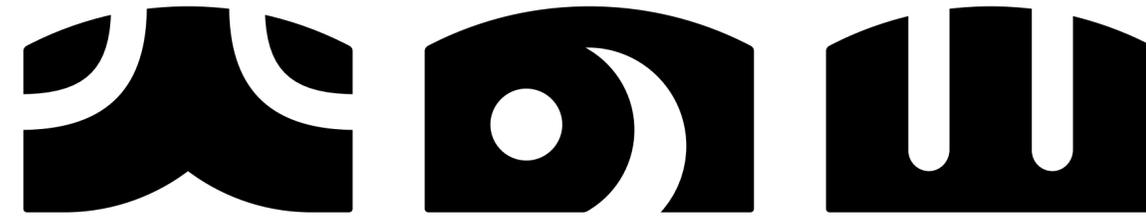
多色表現が可能な場合には、通常のカラーロゴの使用を推奨しますが、ロゴ色と同一または類似する色面や、一定以上に濃度の高い背景に配置する必要がある場合には、こちらの白抜きロゴを使用することができます。



# Monochromatic Logo

モノクロロゴ

モノクロ表現が必要な場合のロゴです。



03.

# Brand Color

ブランドカラー

# Color Palette

## カラーパレット

ロゴをはじめ、ブランドの制作物に共通するカラーパレット（色の組み合わせ）として、右記のように規定します。統一感のあるブランドイメージを醸成するために、これらのカラーを基軸にした制作物を作成することを基本としてください。

※Hinoyama Redをメインカラー、その他の色をサブカラーと考えることを基本とします。ただし、使用する対象によってはその限りではありません。（例：Kanmon Nightをベース色に、Setouchi Skyを差し色にしたカラーパターンのハンドタオルを作りたい）

※各色の濃度を変更した色味を用いることも、場合によっては許容します。特にHeritage GrayとSetouchi Skyは、濃度違いを用いたくなる局面がありそうです。例えばこれらの色を背景とした文字の可読性を上げるなど、ブランドまたはその制作物にとって有益なものであれば、ブランドイメージを損なわない範囲で柔軟に対応することを許容します。

### ▼ Main Color



Hinoyama Red

R: 194  
G: 56  
B: 0  
(#C23800)

C: 30  
M: 89  
Y: 100  
K: 0

PANTONE 180C  
—  
(日塗工 P08-50V)

### ▼ Sub Color



Heritage Gray

R: 170  
G: 165  
B: 164  
(#AAA5A4)

C: 0  
M: 4  
Y: 4  
K: 45

PANTONE Cool Gray 6 C  
—  
(日塗工 P22-70A)

Setouchi Sky

R: 160  
G: 207  
B: 238  
(#A0CFEE)

C: 40  
M: 10  
Y: 5  
K: 0

PANTONE 2905C  
—  
(日塗工 P67-80H)

Kanmon Night

R: 0  
G: 30  
B: 67  
(#001E43)

C: 100  
M: 70  
Y: 30  
K: 65

PANTONE 295C  
—  
(日塗工 P75-20L)

White

R: 255  
G: 255  
B: 255  
(#FFFFFF)

C: 0  
M: 0  
Y: 0  
K: 0

Black

R: 0  
G: 0  
B: 0  
(#000000)

C: 0  
M: 0  
Y: 0  
K: 100

PANTONE Black 6C  
—  
(日塗工 P08-50V)

# Color Palette

## カラーパレット

ブランドのメインカラーであるHinoyama Redは、赤とも、朱とも、茶ともとれる、他ではあまり見ることのない独特な赤色です。

そこにある歴史や時間を感じさせつつも、いきいきとしているこの赤色の主なインスピレーションは、多くの人が現地で感じるであろう軍事施設跡の印象的な壁色ですが、火の色や甲冑の色、山頂から見える夕焼けの色など、火の山について知る人にはさまざまな捉え方ができる、想像性をもった色でもあります。ブランドロゴにもこの色を採用しており、山や公園のロゴには緑色が多用される中で、火の山らしい個性・独自性が表現されることに大きく寄与するブランドアセット(ブランドの価値を高める資産)です。

その他、サブカラーにも火の山にまつわる意味合いが込められており、それぞれのイメージにちなんだオリジナルの色名を付与しています。



大パノラマが楽しめる高台にあるからこそ感じられる、地平線に近いところの明るく爽やかな空色



Hinoyama Red



Setouchi Sky



石積み擁壁やコンクリートなど、火の山ならではの、むき出しになっている歴史から感じられるグレー。アッシュ(灰)グレーをベースにしており、狼煙を上げていた歴史からのインスピレーションも



Heritage Gray



Kanmon Night



多くの人が現地で感じるであろう軍事施設跡の印象的な壁色。火の色や甲冑の色、山頂から見える夕焼けの色など、火の山について知る人にはさまざまな捉え方ができる、想像性をもった色でもある



日本夜景遺産に登録されているほどの、有数の素晴らしい夜景が楽しめるこの場所だからこそその少し青みがかった深い夜空の色

# Creative Sample by the Color Palette

## カラーパレットを使った作例

前項に挙げたカラーパレットを使用した作例です。

この作例は、ブランドのメインカラーであるHinoyama Redがもっとも印象に残るような配色を基本に、Heritage Grayをそれを引き立たせるサブカラーとして用いています。この色の組み合わせは、火の山の深い歴史に裏づけられた格調と、他にない新鮮なイメージを同時に表現するのに非常に効果的といえます。

さらに、Blackを本文に使用することで原稿に締まった雰囲気をつくり、ポイントになる箇所に対してはSetouchi Skyを差し色的にあてています。

なお、ここから分かるように、本ブランドの制作物においては、必ずしもカラーパレットにある全色を同時に使用する必要はありません。

※本作例は、あくまでも参考イメージです。

なお、色覚の多様性に配慮し、より多くの人に利用しやすい情報を提供する「カラーユニバーサルデザイン」の考え方でできる限り基づいて、視覚的な表現を行うよう留意してください。



# 04.

# Usage

ロゴの取り扱い

# Clear Space

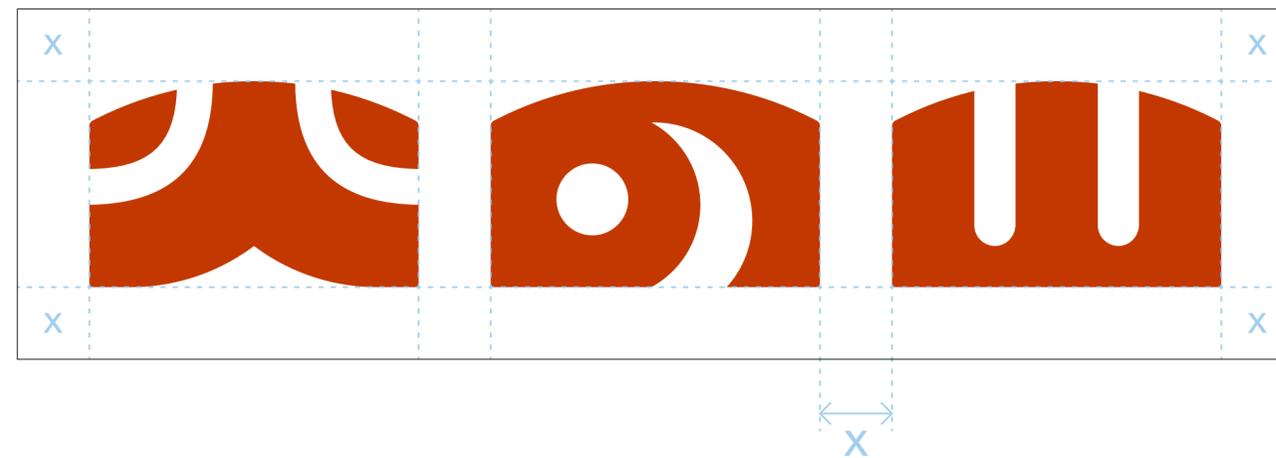
## クリアスペース

ロゴの視認性を損なわないよう、ロゴの周囲には黒い線で記したクリアスペースを確保して、その他のグラフィック要素を入れないことを基本的な考え方とします。

## Main Logo

メインロゴ

Clear Space



# Clear Space

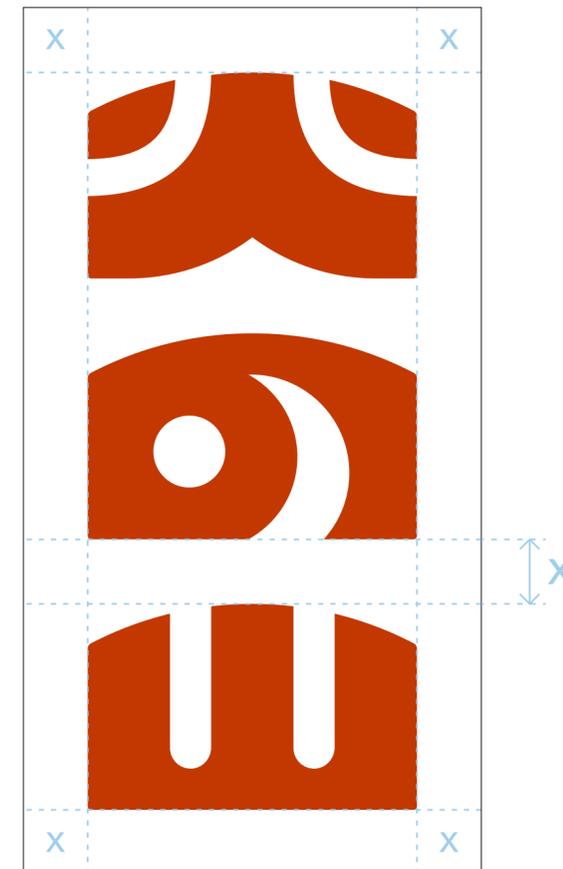
## クリアスペース

ロゴの視認性を損なわないよう、ロゴの周囲には黒い線で記したクリアスペースを確保して、その他のグラフィック要素を入れないことを基本的な考え方とします。

## Sub Logo

縦組みロゴ

Clear Space

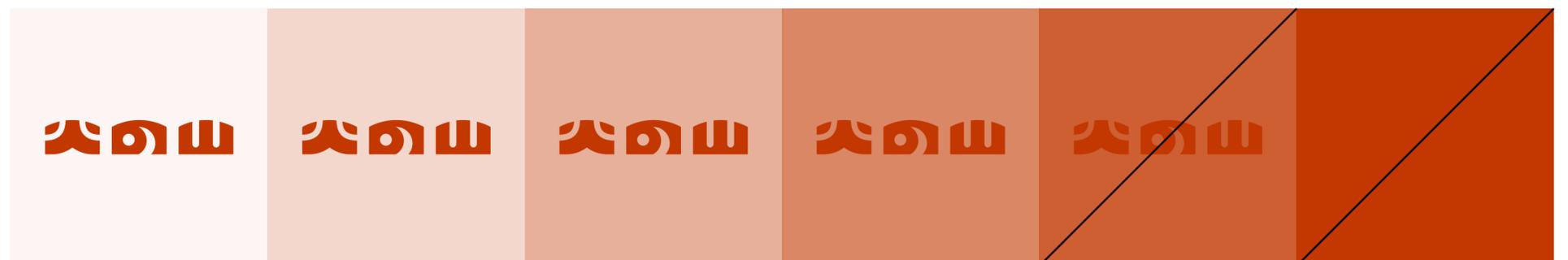
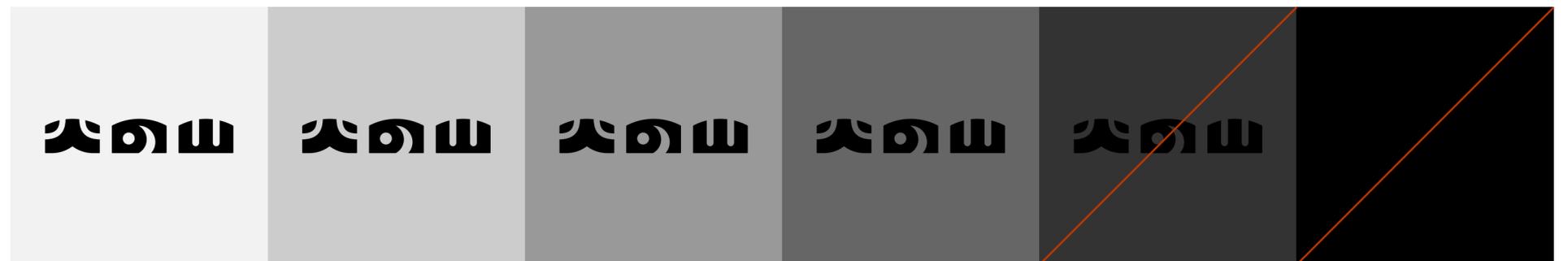
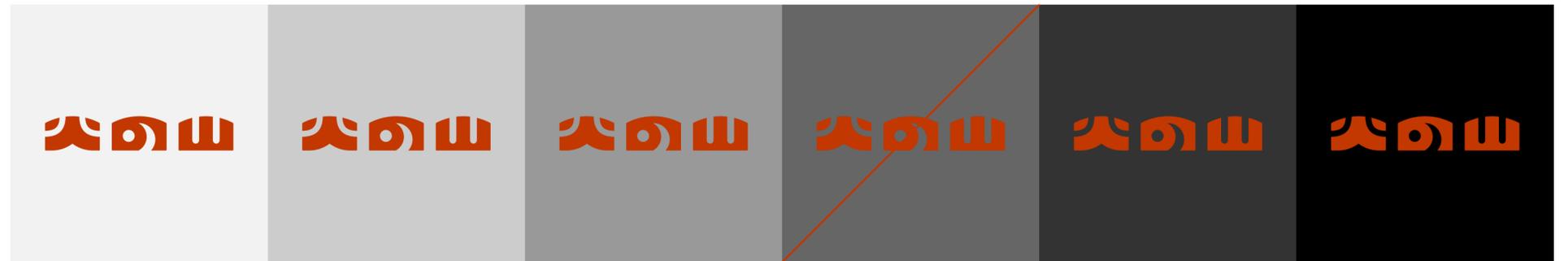


# Background Rule 1

## 背景ルール1

ロゴは一定の視認性を保つことのできる表現を選択してください。

具体的には右記をひとつの目安にしてください。

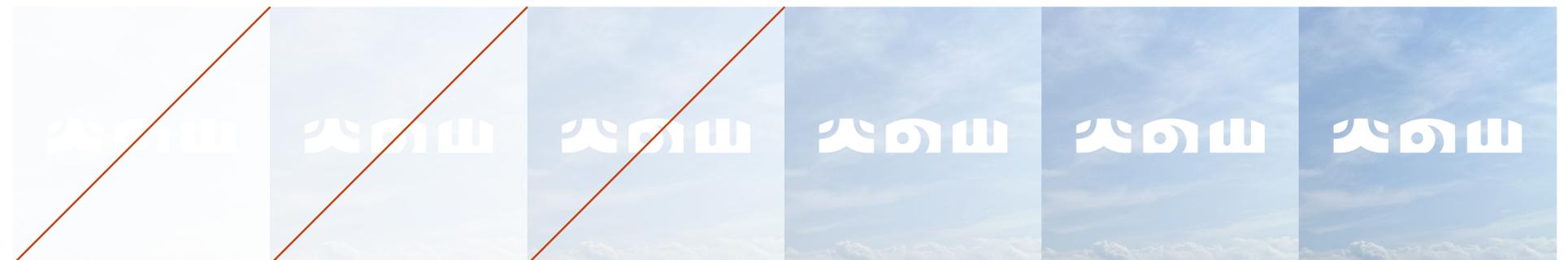


# Background Rule 2

## 背景ルール2

ロゴは一定の視認性を保つことができる背景に配置してください。

具体的には右記をひとつの目安にしてください。



# Minimum Size

## 最小サイズ

それぞれのロゴの最小サイズの規定です。  
視認性を保つため、基本的に右記のサイズよりも小さく使用することを禁じます。

### For Print

プリント最小サイズ



W = 6mm



H = 4mm

### For Digital

デジタル最小サイズ



W = 40px



H = 27px

# Prohibited Usage

## 禁則例

ロゴのイメージを統一するため、右記のような形での使用を禁じます。

なお、色覚の多様性に配慮し、より多くの人に利用しやすい情報を提供する「カラーユニバーサルデザイン」の考え方にできる限り基づいて、視覚的な表現を行うよう留意してください。

 <p>縦横比を変更してはいけません</p>	 <p>角度を変えてはいけません</p>	 <p>透過させてはいけません</p>													
 <p>加工を施してはいけません</p>	 <p>他の要素を追加してはいけません</p>	 <p>ロゴタイプの間隔を変更してはいけません</p>													
 <p>ロゴの組み方を変更してはいけません</p>	 <p>要素の比率を変えてはいけません</p>	 <p>縁どりを加えてはいけません</p>													
 <p>「カラーユニバーサルデザイン」の考え方に大きく反する使い方をしてはいけません</p>			<p>※カラーユニバーサルデザインに大きく反する使い方の一例： 赤いロゴを緑の色面を背景にして配置</p> <table border="0"> <tr> <td colspan="2">一般色覚者の見え方 (C型)</td> <td colspan="2">色弱者の見え方 (D型: 第2色弱の例)</td> </tr> <tr> <td>赤</td> <td>緑</td> <td>赤</td> <td>緑</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	一般色覚者の見え方 (C型)		色弱者の見え方 (D型: 第2色弱の例)		赤	緑	赤	緑				
一般色覚者の見え方 (C型)		色弱者の見え方 (D型: 第2色弱の例)													
赤	緑	赤	緑												
															

05.

# Typography

タイポグラフィ

# Recommended Fonts

## 推奨フォント

統一感のあるブランドイメージを醸成するために、ブランドのクリエイティブに共通する推奨フォントを、右記のように設定しています。

※Adobe Illustratorのような、フォントの水平比率を変更できるソフトウェアを使用しない場合は、水平比率を調整しない状態でフォントを使用することも許容します。

ただし、統一感のあるブランドイメージをつくるのが大切なので、特にオフィシャル性の高い制作物等については、できる限り水平比率を調整の上制作を進めてください。

※和文の推奨フォントは、web等で入手(有料)することができます。

＜ 和文 ＞ **AXIS** (水平比率93%) ※水平比率を93%に設定。結果、字形が少し長体になります。

Light

長い時を経て今の姿となった関門海峡の地形と自然美。  
そこには古来より激動の歴史と人々の営みがあった。  
「火の山」は海峡の自然と文明をみつめてきた場所。

Regular

長い時を経て今の姿となった関門海峡の地形と自然美。  
そこには古来より激動の歴史と人々の営みがあった。  
「火の山」は海峡の自然と文明をみつめてきた場所。

Medium

長い時を経て今の姿となった関門海峡の地形と自然美。  
そこには古来より激動の歴史と人々の営みがあった。  
「火の山」は海峡の自然と文明をみつめてきた場所。

# Recommended Fonts

## 推奨フォント

統一感のあるブランドイメージを醸成するために、ブランドのクリエイティブに共通する推奨フォントを、右記のように設定しています。

※Adobe Illustratorのような、フォントの水平比率を変更できるソフトウェアを使用しない場合は、水平比率を調整しない状態でフォントを使用することも許容します。

ただし、統一感のあるブランドイメージをつくるのが大切なので、特にオフィシャル性の高い制作物等については、できる限り水平比率を調整の上制作を進めてください。

※英数の推奨フォントは、web等で入手(有料)することができます。

< 英数 > **Lausanne** (水平比率96%) ※水平比率を96%に設定。結果、字形が少し長体になります。

100

The straits have been a place of turbulent history and people's lives since ancient times. "HINOYAMA" is a place that has been observing the nature and civilization of the straits.

200

The straits have been a place of turbulent history and people's lives since ancient times. "HINOYAMA" is a place that has been observing the nature and civilization of the straits.

300

The straits have been a place of turbulent history and people's lives since ancient times. "HINOYAMA" is a place that has been observing the nature and civilization of the straits.

# Original Composite Font by Recommended Fonts

## 推奨フォントによるオリジナル合成フォント

クリエイティブに従事する多くの方が使用しているソフトウェア「Adobe Illustrator」では、異なるフォントを組み合わせ、オリジナルのフォントセット(合成フォント)を自分で作成することができます。

本ブランドにおいては、和文と英数で異なる推奨フォントを設定しているため、この合成フォントのシステムを活用していくことで、非常に効率よく制作を進めることができます。

合成フォントを一度作成・設定しておく、それ以降通常のフォントと同じように合成フォントの選択・使用が可能になります。

(通常のフォント使用と同様に入力するだけで、自動的に和文は和文フォントの設定に、英数は英数フォントの設定になります)

## < 推奨フォントによる合成フォント >

Light

歴史ある火の山を世界のHinoyamaに

Regular

歴史ある火の山を世界のHinoyamaに

Medium

歴史ある火の山を世界のHinoyamaに

# Original Composite Font by Recommended Fonts

## 推奨フォントによるオリジナル合成フォント

具体的には、以下のようにして合成フォントを作成し、**全体の水平比率を調整した上で**テキストを入力します。

(※Adobe Illustratorの場合：令和7年3月現在)

- ① メニュー内の「書式」→「合成フォント」をクリックし、「新規」ボタンを押して新しい合成フォントの作成へ。和文にAXISを、英数にLausanneを選択肢し、以下のようにLausanne側の数値を変更し、保存する。  
(サイズ113%・ベースライン-4%・水平比率103.5%)

Light Setting : AXIS (Light) + Lausanne (100)

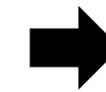
合成フォント : HINOYAMA_Light		単位 : %				
	フォント	サイズ	ベース...	垂直比率	水平比率	
漢字	AXIS ベーシック...	L	100%	0%	100%	100%
かな	AXIS ベーシック St...	L	100%	0%	100%	100%
全角約物	AXIS ベーシック St...	L	100%	0%	100%	100%
全角記号	AXIS ベーシック St...	L	100%	0%	100%	100%
半角欧文	TWK Lausanne	100	113%	-4%	100%	103.5%
半角数字	TWK Lausanne	100	113%	-4%	100%	103.5%

Regular Setting : AXIS (Regular) + Lausanne (200)

合成フォント : HINOYAMA_Regular		単位 : %				
	フォント	サイズ	ベース...	垂直比率	水平比率	
漢字	AXIS ベーシック...	R	100%	0%	100%	100%
かな	AXIS ベーシック St...	R	100%	0%	100%	100%
全角約物	AXIS ベーシック St...	R	100%	0%	100%	100%
全角記号	AXIS ベーシック St...	R	100%	0%	100%	100%
半角欧文	TWK Lausanne	200	113%	-4%	100%	103.5%
半角数字	TWK Lausanne	200	113%	-4%	100%	103.5%

Medium Setting : AXIS (Medium) + Lausanne (300)

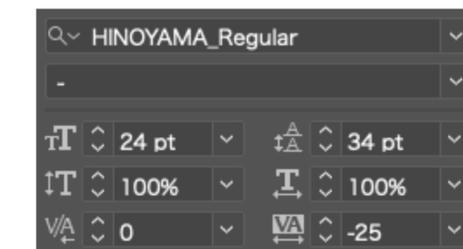
合成フォント : HINOYAMA_Medium		単位 : %				
	フォント	サイズ	ベース...	垂直比率	水平比率	
漢字	AXIS ベーシック...	M	100%	0%	100%	100%
かな	AXIS ベーシック St...	M	100%	0%	100%	100%
全角約物	AXIS ベーシック St...	M	100%	0%	100%	100%
全角記号	AXIS ベーシック St...	M	100%	0%	100%	100%
半角欧文	TWK Lausanne	300	113%	-4%	100%	103.5%
半角数字	TWK Lausanne	300	113%	-4%	100%	103.5%



- ② これで異なるウェイトで3つの、オリジナル合成フォントの作成自体は完了だが、**使用する際にはテキスト全体の水平比率を93%にして**打っていく。

※例：Regular Settingの場合

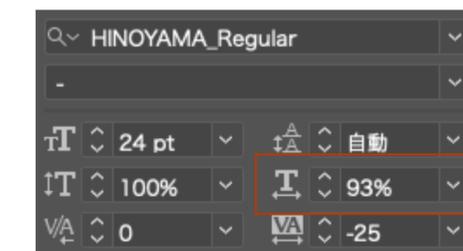
何も触っていない状態（水平比率 100%）



歴史ある火の山を世界のHinoiyamaに



調整後（水平比率 93%）



歴史ある火の山を世界のHinoiyamaに

# Manual Adjustment for Recommended Fonts

## 推奨フォント使用時の手動調整イメージ

何らかの理由で合成フォントのシステムが使用できない場合には、和文フォント／英数フォントを手動で調整し、合成フォント同様に文字を組んでいくことができます。  
具体的には右記を参考にしてください。

Light

歴史ある火の山を世界のHinoyamaに

AXIS

Light

50pt

水平比率 93%

TWK Lausanne

太さ100

56.5pt水平比率 96%ベースライン -11pt

AXIS

Light

50pt

水平比率 93%

Regular

歴史ある火の山を世界のHinoyamaに

AXIS

Regular

50pt

水平比率 93%

TWK Lausanne

太さ200

56.5pt水平比率 96%ベースライン -11pt

AXIS

Regular

50pt

水平比率 93%

Medium

歴史ある火の山を世界のHinoyamaに

AXIS

Medium

50pt

水平比率 93%

TWK Lausanne

太さ300

56.5pt水平比率 96%ベースライン -11pt

AXIS

Medium

50pt

水平比率 93%

# Alternative Fonts

## 代替フォント

推奨フォントは、そのライセンスおよびフォントファイルの共有を受けるか、新規で購入をする必要があります。

推奨フォントを使用することが難しい場合に、どなたでも無料で使用できるフォントとして、代替フォントを設定します。

ブランドのオフィシャル性の高い制作物をはじめ、できる限り推奨フォントの使用をお願いしていますが、それらが使用できないコンディションにおいてはこちらの代替フォントを使用してください。

これは、際限なくさまざまなフォントの使用が乱立し、ブランドのトーン&マナーが崩壊してしまうことを防ぐ意味を持ちます。

※Adobe Illustratorのような、フォントの水平比率を変更できるソフトウェアを使用しない場合は、水平比率を調整しない状態でフォントを使用することも許容します。

ただし、統一感のあるブランドイメージをつくるのが大切なので、特にオフィシャル性の高い制作物等については、できる限り水平比率を調整の上制作を進めてください。

※和文の代替フォントは、web等で入手することが可能です。

＜ 和文 ＞ **Noto Sans CJK JP** (水平比率93%) ※水平比率を93%に設定。結果、字形が少し長体になります。

Light

長い時を経て今の姿となった関門海峡の地形と自然美。

そこには古来より激動の歴史と人々の営みがあった。

「火の山」は海峡の自然と文明をみつめてきた場所。

Regular

長い時を経て今の姿となった関門海峡の地形と自然美。

そこには古来より激動の歴史と人々の営みがあった。

「火の山」は海峡の自然と文明をみつめてきた場所。

Medium

長い時を経て今の姿となった関門海峡の地形と自然美。

そこには古来より激動の歴史と人々の営みがあった。

「火の山」は海峡の自然と文明をみつめてきた場所。

# Alternative Fonts

## 代替フォント

推奨フォントは、そのライセンスおよびフォントファイルの共有を受けるか、新規で購入をする必要があります。

推奨フォントを使用することが難しい場合に、どなたでも無料で使用できるフォントとして、代替フォントを設定します。

ブランドのオフィシャル性の高い制作物をはじめ、できる限り推奨フォントの使用をお願いしていますが、それらが使用できないコンディションにおいてはこちらの代替フォントを使用してください。

これは、際限なくさまざまなフォントの使用が乱立し、ブランドのトーン&マナーが崩壊してしまうことを防ぐ意味を持ちます。

※Adobe Illustratorのような、フォントの水平比率を変更できるソフトウェアを使用しない場合は、水平比率を調整しない状態でフォントを使用することも許容します。

ただし、統一感のあるブランドイメージをつくるのが大切なので、特にオフィシャル性の高い制作物等については、できる限り水平比率を調整の上制作を進めてください。

※英数の代替フォントは、web等で入手することが可能です。

## < 英数 > Plus Jakarta Sans (水平比率96%) ※水平比率を96%に設定。結果、字形が少し長体になります。

200 (Extra Light)

The straits have been a place of turbulent history and people's lives since ancient times. "HINOYAMA" is a place that has been observing the nature and civilization of the straits.

340

The straits have been a place of turbulent history and people's lives since ancient times. "HINOYAMA" is a place that has been observing the nature and civilization of the straits.

440

The straits have been a place of turbulent history and people's lives since ancient times. "HINOYAMA" is a place that has been observing the nature and civilization of the straits.



# Manual Adjustment for Alternative Fonts

## 代替フォント使用時の手動調整イメージ

英数の代替フォントである「Plus Jakarta Sans」は、バリエーションと呼ばれる、フォントの太さを細かく自由に設定できるフォントで、合成フォントのシステムの適用外になっています。

よって代替フォントを使用する際には、和文フォント／英数フォントを手動で調整して文字を組んでいくことを推奨します。具体的には右記を参考にしてください。

Light

歴史ある火の山を世界のHinoyamaに

Noto Sans CJK JP

Light

50pt

水平比率 93%

Plus Jakarta Sans CJK JP Noto Sans CJK JP

太さ200 ( Extra Light )

55pt

水平比率 96%

ベースライン -1pt

Light

50pt

水平比率 93%

Regular

歴史ある火の山を世界のHinoyamaに

Noto Sans CJK JP

Regular

50pt

水平比率 93%



Plus Jakarta Sans CJK JP Noto Sans CJK JP

太さ340

55pt

水平比率 96%

ベースライン -1pt

Regular

50pt

水平比率 93%

Medium

歴史ある火の山を世界のHinoyamaに

Noto Sans CJK JP

Medium

50pt

水平比率 93%

Plus Jakarta Sans CJK JP Noto Sans CJK JP

太さ440

55pt

水平比率 96%

ベースライン -1pt

Medium

50pt

水平比率 93%

# Text Layout Sample

## 文字組みのサンプル①

書類をイメージした、文字組みの一例です。

## 特別な海峡景色

関門の旅はここから始まりここで終わる

ガイドブックで見つけた気になるあの場所、「ヒノヤマリング」は旅の出発点。  
山頂で見つけた景色は次の目的地。仲間と楽しい旅の作戦会議が始まる。  
きらめく関門橋に船の汽笛が響く、夜の関門海峡。  
楽しい旅はもうすぐエンディング。心に刻む海峡景色。

## Special Straits View

A trip to Kanmon begins and ends here.

Hinoyama Ring, that place you found in the guidebook that interests you, is the starting point of your journey. The view found at the top of the mountain is the next destination. A fun trip strategy meeting with friends begins here. The sparkling Kanmon Bridge and the whistle of a ship echoing through the Kanmon Straits at night. The fun trip will soon come to an end. The view of the straits will be etched in your mind.

火の山

# Text Layout Sample

## 文字組みのサンプル②

サインデザインをイメージした、文字組みの一例です。

## 火の山砲台跡 第3砲台 24センチカノン砲床

Ruins of Hinoyama 3rd Battery  
Floor of 24cm cannon

火の山

平成16年、公園を整備する際、園路の下からコンクリートで床を張り、直線と円形に溝が掘られた跡が見つかりました。直線の溝の中には枕木が組み込まれ、枕木にはボルトとナットが円形に打ち込まれていました。

この基礎は、見つかった位置、およびバス回転場で見つかった造りと似ていることから、同じく24センチカノン砲を据え付けるための砲床とされます。基礎は距離をおいて2つ見つかることから、大砲は2門並んでいたことがわかります。

In 2004, when the park was being developed, a concrete floor was found under the parkway with the remains of straight and circular trenches that had been dug. A sleeper was incorporated into the straight trench, and bolts and nuts were driven into the sleeper in a circular pattern. This foundation, because of its location and similarity to the structure found at the bus turntable, is thought to be a gun platform for a 24-centimeter cannon, as well. The fact that two foundations were found at a distance from each other indicates that two cannons were placed side by side.



# Text Layout Sample

## 文字組みのサンプル③

サインデザインをイメージした、文字組みの一例です。



# HINOYAMA Brand Guidelines



ver 1.1 Mar 2025

©2025 Shimonoseki City